

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことから，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

「歴史上における境界」をテーマとし，Aは東アジアの国際関係，Bは疫病と境界をめぐる対応，Cは境界がもたらす人やモノの移動を素材として，境界の持つ意味や影響を考察し解答させる問題である。

Aでは，国際関係における「境界」に着目して，日清修好条規の抜粋と近代東アジアの国際秩序観をまとめたパネルを生徒が作成する場面を取り上げ，歴史総合で学んだ知識を用いてそれらを考察する力を問うた。問1は正答率がやや低かったものの，いずれの小問についても識別力は妥当であった。

Bでは，疫病流行と「境界」との関連性について，生徒と先生の会話の場面を取り上げた。問3では，会話文の情報を読み取り，内容的理解・概念的理解に基づき，歴史的な事象相互の関連性・類似性について考察できるかを問うた。問4では，国際関係における「対立と協調」の事例の内容的理解を踏まえ，前後の文脈から論理的に適切な語句を選択できる技能を問うた。問5では，地図から得た情報を踏まえ，歴史的な事象の時系列・推移に着目して，考察の妥当性を適切に判断できるかを問うた。いずれの小問も，正答率・識別力の点で妥当であった。

Cでは，アメリカ合衆国の移民を素材とし，歴史総合で学んできた知識とグラフから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。問6では移民数のグラフを，問7では合衆国への人の流れに影響を与えた世界史的な出来事をそれぞれ取り上げた。問8では，主題を探究するための問いと学習活動を選択するという形で，探究のプロセスを意識した問いを設定した。問7は，識別力がやや低い，他は正答率・識別力の点でおおむね妥当であった。

第2問

「身の回りの諸事象が日本や世界の歴史とどのようにつながっているか」という問いを立て，「装いの歴史」に着目し，Aでは「政治家・官僚・軍人の装い」，Bでは「女性の装い」に関する問いを設定した。いずれも，おおむね適正な正答率・識別力であった。

Aでは，政治家・官僚・軍人の装いを題材とし，2つの図像資料から読み取れる情報について，会話・ノート・グラフ等を踏まえつつ考える問題である。いずれも，おおむね適正な正答率・識別力であった。

Bでは、女性の装いに着目して調べを進めた各班が、その内容を発表している場面を取り上げ、身の回りの諸事象が日本や世界の歴史とどのようにつながっているかを、装いの歴史を通して探究させた。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

Aは歴史的な知識を基に、資料やパネルを読み解く小問から構成されている。問1は国際秩序に関する歴史用語の概念的理解と、地名の包括的理解を組み合わせた良問と評価された。難易度に注意を払いつつ、今後もこうした歴史用語の総合力を試す出題を積極的に行うべきと考える。問2は歴史的知識を基に資料の読み解きを要する問題であり、事象の前後関係など、複数の知識・能力を問う出題を今後も検討していきたい。

Bについては、会話文と地図を読み取って解答する小問から構成されている。いずれも知識・技能を問う問題であるが、とりわけ問3については穀物法に関する事実に知識がなくとも時代性から正答を導ける点、問5については事実に知識に依拠せずとも初見資料（地図）の読み解きで正答を導ける点が、それぞれ評価された。今後も、事実に知識にとどまらず、内容的理解や概念的理解、思考力を問うことができる出題形式に取り組んでいきたい。問6は、知識を前提としてグラフから読み取る技能を問うことを意識した設問との評価を得た。しかし、ベトナム戦争が戦後であることが分かれば容易に誤文の判別ができてしまうのではないかという指摘もあった。より適切な選択肢を設定するために今後の参考としたい。問7は戦後の歴史の大きな流れと、東側陣営の転換の概念的理解を問うた。やや評価が分かれたものの、知識・技能を問う良問であり、歴史総合において学習者が求められる知識の構造が見て取れる出題との評価を得た。日本史・世界史のバランスにより配慮した作問を心掛けた。問8については思考力・判断力・表現力等を問う良問という評価をいただいた。ベルリンの壁崩壊の年号のような知識は必要とせず、あくまでも概念的理解で解答することが可能である。今後もこのタイプの出題は積極的に継続すべきだと思われる。第1問は全体として、場面設定に関して科目の特質をよく踏まえたものになっているとの評価を得た。またAについては、中間の構成が優れていると評価された。今後も具体的な場面設定の中でのバランスの取れた問題構成に努めたい。

第2問

問2は、思考力・判断力・表現力等を問う良問という評価を受けた。また、設定された方法に基づき、概念化された歴史の知識について歴史的な見方・考え方を働かせることで、論理整合性に基づいて正答に至る問題だったと評価された。今後もこのような出題を続けたい。問4は、思考力・判断力・表現力等を問う平易な問題という評価を受けた。また、「グラフから読み取れることに関して述べた文」に関して、2つの文の関連が低い点に改善の余地があると指摘された。今後は、2つの文の間の関連を強めたり、グラフを読み取った上で、その背景を考察させたりするなどの工夫を凝らすことで、更に良問となるように目指したい。問5は、「モダンガール」を事例にして、生徒が持っている「大衆化」概念を多角的に捉えることができる良問との指摘を受けた。歴史総合の目標を体現した問題であるとの評価も受け、今後もこのような問題作成に励んでいきたい。問6は、フランスから影響を受けた1920～1930年代のイタリアのファッション雑誌について、資料の適切な読み解き（技能）とファシズムの概念的理解（知識）が求められる良問との評価を受けた。このような問題形式を積極的に進めたい。さらに、問7も、20世紀後半のイランにおける女性の装いについて、時代の変化を言葉だけではなくイラスト

ト資料からも選ばせる点で良問であり、選択肢の構成も歴史総合らしいとの評価を受けた。今後もこうした問題作成を積極的に進めたい。問8は、各事象の年号の知識でも解答できるが、第二次世界大戦後のジェンダー平等達成のための取組や現状を推察することで正答に至る点が評価された。年代配列については、単なる年号暗記ではなく、因果関係や時代性の推察について言及し、評価いただいた点には、大いに鼓舞された。

4 ま と め

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たっての留意点についてまとめておきたい。

問いの対象となる資料については、文字資料、地図、グラフ、画像資料など多様な歴史資料を提示することに努めた。これは、資料やデータ等を基に考察することを重視したためであり、多様な資料、図版、図表、データ、場面設定などを組み合わせた出題方式を来年度以降も続けてほしいとの評価にもあるように、好意的に受け止められていると考える。

また、大問単位に授業を想定した大きなテーマを設定し、中間単位に授業中のやりとりを取り入れ探究的な活動を行うなど、歴史総合の学びの場面設定を踏まえた出題とした。

単純な事実に知識ばかりではなく、その歴史的事象の内容や因果関係など内容の理解を前提とした包括的理解を問う問題、更には歴史的事象が持つ意味や意義などの概念的理解を問う問題の出題を意識した。

総じて、日本史や世界史に区分できるものではない歴史総合の科目の特性が伝わるように心掛け、知識・技能を問う問題と概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスをとり、両者の融合を図る点にも配慮した。今後もこのような方向性を維持して作題に努めたい。